

I 2023（令和5）年度事業概要

1. 2023（令和5）年度の取り組みについて

3年余りに渡った新型コロナウイルス感染症は、2023（令和5）年5月にようやく感染症法上の2類から5類に変更され、私たちの日常生活も以前の暮らしを取り戻してきました。長いコロナ禍の期間中、本会は生活福祉資金「特例貸付」の窓口となり、約2年半にわたる受付期間で貸し付けた件数は27,000件にも及びました。それに伴い、2020（令和2）年度から本会では生活困窮を喫緊の地域課題として区民・関係機関と協力し、「中野つながるフードパントリー」の取り組みを展開してきました。2023（令和5）年度も4地区で計8回開催しました。現在も物価高の影響で本会の窓口に食料支援を求める方は後を絶たず、依然としてコロナ禍の影響は続いていると言えます。

また、コロナ禍において停滞を余儀なくされてきた地域活動も必ずしもマイナス面だけでなく、子ども食堂やサロン活動に新規で取り組む区民、団体も増え、新たな活動者層の開拓につながったという面もありました。一方で、福祉何でも相談及びひきこもり支援事業では新規相談件数は増えてはいませんが、相談内容も長期間孤立していたために複雑多岐にわたり、すぐに解決できるものは少なく、他機関・団体との連携により粘り強く対応する必要があるケースが増えていきます。以前より「ひきこもり」に象徴される「生きづらさを抱えた人」への支援を重点的に取り組んできましたが、残念ながらコロナ禍を経てより深刻化されているとも言える状況です。

2023（令和5）年度は本会の創立70周年という節目になる年度となり、第4次中野区民地域福祉活動計画の策定時期でもありました。アフターコロナのこれからの地域課題の解決に向けて新たな活動計画のもと、「わたしたちがいつもいきいきと暮らせる」中野のまちを実現することを使命としてより一層本会の活動を進めてまいります。

2023（令和5）年度の主な取り組み結果は以下のとおりです。

2. 2023（令和5）年度の重点的な取り組みの結果について

（1）「第4次中野区民地域福祉活動計画（2024～2028年度）」の策定

いきいきプラン推進委員会を中心として「第4次中野区民地域福祉活動計画（以下「第4次計画」）の策定を行いました。策定にあたり関係機関・団体へのアンケートやヒアリング、地域福祉推進フォーラムの開催や地域懇談会の開催を実施し、多くの方の意見やこれからの活動への要望を伺うとともに、中野区が策定する「中野区地域福祉計画」との整合性を図り策定を進めました。第4次計画では前計画の「社会的孤立を生まない人と人がつながる地域づくりを目指す」と基本目標と「MEをWEにする」というキャッチフレーズもそのまま踏襲し、①多様な居場所を作る、②活動のすそ野を広げる、③必要な人に情報を届ける、④一人ひとりのニーズに合わせた支援につなげる、という4つの重点的取り組みを進めていくこととしました。

また、地域課題が複雑かつ多様化しており、その解決には区民をはじめ様々な関係機関が連携することが必要であるため、身近な地域にそれらをつなぐ役割を持った専任の職員配置が必要だとして「地域福祉コーディネーターの配置」を提案し、第4次計画期間中（5年間）に順次進めて

いくこととしました。

(2) 創立70周年記念事業の取り組み

中野社協は1953（昭和28）年10月12日に設立されました。広く区民に本会の周知を拡げるために70周年記念のロゴを作製し中野社協の事業、広報紙、ホームページ等で区民、関係機関へのPRを行うとともに会員を中心に周年記念グッズの配布を行いました。また、中野社協の70年の歩みを特にここ10年間の本会事業にかかわっていただいた区民・関係者のインタビューを中心に編集した記念誌を発行し、中野社協の活動と地域福祉活動への理解促進につなげました。

なお、創立70周年記念式典については2023（令和5）年11月9日になかのZERO大ホールにおいて区長をはじめとする来賓の方々のご臨席のもとに記念式典を開催し、多くの方々と70年のあゆみを振り返り、ともに祝うことができました。

(3) 生活困窮者・ひきこもり等の生きづらさを抱えた人への支援強化

2020（令和2）年度から始まった「中野つながるフードパントリー」は、2023（令和5）年度においては4か所の地区で計8回開催されました。この取り組みが継続される中で地域のイベントとして定着している地区があり、実施にあたってはどの地区においても町会・自治会をはじめ、多くの関係機関・団体から寄付金等の協力が得られていることから「生活困窮」の課題は身近な課題として一定の理解を得られたものと考えています。しかし、食料支援を求め本会へ連絡をいただく方はまだまだ多く、潜在化している生活困窮者の課題を日常的にどのような仕組みで支えていくのか関係機関とともに協議を進めていきます。

また、「生きづらさを抱えた人への支援」については、2022（令和4）年度に「ひきこもり支援事業」を中野区から受託し、当事者・家族への支援や居場所の運営を行っています。2023（令和5）年度では当事者・家族へ理解を「ひきこもり支援サポーター養成講座」を開催し、「ひきこもり」への理解促進と居場所等において当事者に寄り添い支援を行う区民の養成を行いました。講座の終了後には18名のサポーターが登録し、学習会を定例で開催しています。今後も養成講座を開催し、区民への理解促進と支援者の拡大を図ってまいります。

(4) 成年後見制度利用促進のための取り組みをすすめる

2021（令和3）年10月に中野区が「成年後見制度利用促進計画」を策定し、成年後見制度の利用促進に重点的に取り組むことになり、2022（令和4）年度より中野区とともに「中核機関」としてこれまでの成年後見支援センターの機能を拡大し新たな体制で取り組んでいます。2023（令和5）年度は、「中核機関」としての役割をより強化するために、引き続き制度利用の促進に努めました。その結果、徐々に相談は増えてきています。また、弁護士・司法書士・社会福祉士等の専門職と中野区を含めた成年後見支援検討会議を開催し、制度の申し立て方針を確認し支援方針の見直しを行うなど、チーム支援の強化を図りました。定期的な開催により連携は強化され、昨年度未実施だったモニタリングも実施することができました。今後も判断能力が不十分な区民が、その権利を侵害されることなく、本人の意向に沿った生活がこの新たな仕組みの中で実現できるように、これまでの成年後見支援センター運営の経験と地域福祉権利事業での実

績を生かし、制度の利用促進に寄与してまいります。

また、地域における成年後見制度の理解促進や人権意識の向上につなげるため、社会貢献型後見人(市民後見人)の育成強化も図ってまいります。

(5) 組織基盤の強化

本会の財源は、8割近くが補助金・委託金で賄われており、安定的な運営を継続するためには中野区との連携・協働関係を強化する必要があります。2023(令和5)年度は、本会の活動方針についての意見や運営上の課題について定期的に協議をすすめ信頼関係の構築に努めました。その結果として事務局職員の人員確保・強化をすることができました。また、自主財源の確保が大きな課題でしたが、2023(令和5)年度は大口の寄付が数件あり、6,000万円近い収入を得ることができ、一般財源、ボランティア基金、中野・子どもの未来応援基金等の充実を図ることができました。しかし一方では社協会員の漸減傾向は継続されたままとなっています。

今後も中野区との信頼関係構築と連携強化に努めることが必要ですが、安定的な財源確保のためには本会の活動についてSNS等を通して広報するとともに、本会の周知度、信頼度のアップを地道に行い、寄付金とともに社協会員の獲得にも力を入れていきます。

(6) 職員の資質向上とスキルアップを図る

本会の担当する事業において対応する相談内容もより複雑化しており、より相談者に寄り添った支援や関係機関との連携が必要になっています。引き続き職場内での研修や指導体制の充実を図るとともに、他団体の研修に積極的に取り組み職員の資質向上とスキルアップを図ってまいります。

また、事務局職員による地域担当制は年々地域への支援回数も多くなっています。特に居場所情報の収集や区民活動センター運営委員会や中野区職員(アウトリーチチーム)との連携により地域活動団体への支援や相談者の対応を行う機会が増えています。各地区での地域担当職員の活動をより広げ、深めるためには現在の兼務体制では限界があるため、第4次計画で提案した専任の地域福祉コーディネーターの配置を進めてまいります。今後はそれに対応できる専門性を備えた職員の要請を資質向上とスキルアップを図ります。

各地区での地域担当職員の活動をより広げ深めるためには現在の兼務体制では限界があり、第4次計画で提案した専任の地域福祉コーディネーターの配置を進め、それに対応できる職員の資質向上とスキルアップを図ります。

Ⅱ 事業別実施内容

Ⅰ. 社会福祉事業

1. 法人運営

(1) 理事会、評議員会

①理事会（5回開催）

5月31日：2022年度事業報告・決算、2023年度第1回補正予算、評議員の選任
組織規程の一部改正、常務理事の選任、次期理事・監事の選任
定時評議員会の招集事項等

6月21日：会長・副会長・常務理事の選任等

9月28日：2023年度第2回補正予算、2023年度創立70周年記念顕彰者
定年延長に関わる諸規程の改正、評議員会の招集事項

12月5日：定款細則の一部改正、諸規程の改正、2023年度第3回補正予算、評議員会の招集

3月19日：2023年度第4回補正予算、2024年度事業計画・予算、諸規程の一部改正、
第4次中野区民地域福祉活動計画、重要な職員の選任等について、理事の選任
定款変更、評議員会の招集事項

②評議員会（4回開催）

6月21日：2022年度中野社協事業報告、決算報告（監査報告）、2023年度第1回補正予算

10月12日：2023年度第2回補正予算

12月13日：2023年度第3回補正予算

3月29日：第4次中野区民地域福祉活動計画、定款変更、2023年度第4回補正予算、
2024（令和6）年度事業計画・予算、理事の選任

③評議員選任・解任委員会 開催なし

(2) 経営改善計画の推進

①広報担当者会の開催

<検討内容>

- ホームページ、SNS の活用促進
- 社協・ホームページの「なかの情報（データベース）」の周知及び活用
- 中野社協公式 LINE の活用 登録者約 656 名（2023 年 3 月末 約 480 名）

②財政基盤の確立と地域課題への取り組み

ア. 中野つながるフードパントリー 8回開催

<4地域での実施> 食料受け取り 延べ516人

8/6 東部地域 7/29・11/25・3/16 鷺宮地域

9/30・12/9・2/17 江古田地域 2/23 昭和・東中野地域

※東部地域は、地域で独自に財源を確保したため、ファンレイジングによる寄付金は使用せず実施しました。鷺宮地域・昭和東中野地域は、地域からの寄付とファンレイジングによる寄付金の両方を使用しました。

③事務事業総点検

各課で事業別に概要シートを作成し、事務事業の見直しを行った。

④人事・給与等の仕組みの確立

研修台帳・研修体系の見直しを進め、2024年度より新しい研修台帳及び研修体系で実施する予定です。

(3) 社協会員の増強

2023(令和5)年度も、民生児童委員の皆さまに多大なご協力を頂きましたが、結果として会員数の減少傾向は継続しています。70周年事業もあり、記念誌の作成や周年事業を通じた周知なども取り組み、特別会員及び団体会員は微増となっております。会員増強を目指し、全戸配布の広報紙「ハピネスなかの」に会費の払込用紙を刷り込み、新規会員の加入促進を図るとともに、事務局扱いの会員へ年2回加入のお願いの送付も行いました。2024(令和6)年度は、会費納入のハードルを下げするため、クレジットカードでの支払いができる仕組みの導入などを進めていく予定です。引き続き、社協事業のPRを行い、社協の様々な活動への参加を民生児童委員との協力を得て呼び掛けていきます。

<2023年度>

	普通会員	団体会員	特別会員	計
会員数(人)	2,218	216	137	2,571
会費(千円)	2,995	2,207	1,544	6,746

<2022年度>

	普通会員	団体会員	特別会員	計
会員数(人)	2,342	210	133	2,685
会費(千円)	3,191	2,214	1,474	6,879

<2021年度>

	個人会員	団体会員	特別会員	計
会員数(人)	2,423	219	108	2,750
会費(千円)	3,225	2,217	1,851	7,293

(4) いきいきプラン～第4次中野区民地域福祉活動計画～の策定

2023(令和5)年度は、第3次中野区民活動計画の最終年度となり、第4次中野区民地域福祉活動計画策定を中心に進めました。いきいきプラン推進委員会だけではなく、アンケートやヒアリング、地域福祉推進フォーラムや地域懇談会などを通じて、区民の皆さんや関係機

関の皆さんの声を聞く機会を設けました。

「MEをWEにする」取り組みを拓げるため、第4次中野区民地域福祉活動計画の策定を通じて地域の皆さんとともに取り組みを進めていきます。

いきいきプラン推進委員会（4回開催）

第1回 2023（令和5）年 5月26日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・第4次中野区民地域福祉活動計画の策定に向けて ・地域協議会について 地域における公益的な取り組み
第2回 2023（令和5）年 10月13日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・第4次中野区民地域福祉活動計画素案 ・素案の周知方法について
第3回 2024（令和6）年 1月26日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・第4次中野区民地域福祉活動計画素案の意見集約について ・第4次中野区民地域福祉活動計画最終案について
第4回 2024（令和6）年 3月4日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・第4次中野区民地域福祉活動計画最終案について パブリックコメントの結果報告 ・第4次中野区民地域福祉活動計画の推進について <ul style="list-style-type: none"> ①2024年度からの取り組みについて（5年間でどんな取り組みを進めていくか） ②第4次中野区民地域福祉活動計画の評価と推進について

区民・関係機関等への意見集約

2023（令和5）年 7月～8月	区民対象アンケート（グーグルフォームを活用） 765名回答 民生児童委員向けアンケート 104名回答 関係機関向けアンケート 122名回答
2023（令和5）年 12月1日（金）	地域福祉推進フォーラム（オンライン開催） 参加者20名 職員17名
2023（令和5）年 ①12月11日（月） ②12月12日（火）	地域懇談会 ①鷺宮区民活動センター 参加者36名 職員13名 ②南部すこやか福祉センター 参加者20名 職員17名

（5）地域担当職員の配置

2004（平成16）年6月から、地域福祉の課題を住民とともに考え解決に取り組むため、区内15地区の区民活動センター単位に地域担当職員を配置しています。

常勤職員の増加により、中部・北部・鷺宮・南部すこやか福祉センター圏域に担当課長補佐を配置し、地域担当業務のサポート及び調整を行い、地域支援の強化を行いました。地域担当業務の行動表の作成にソフトを導入し、統計等に反映できるよう事務改善を行い、対応実績も細かく入力を進めた結果、前年度より件数が増えました。地域担当職員が、地域で様々な取り組みを行っていることが実績として表れています。

(件)

活動内容	コーディネート	個別相談	まちなかサロン支援	まちなかサロン立ち上げ支援	ボランティアグループ等からの相談および地域支援	地域事業へ参加	ネットワーク会議等への参加	福祉施設（会議出席及び相談）	民生児童委員（会議出席及び相談）	町会・自治会（会議出席及び相談）	アトリチーム・区民活動センター運営委員会との打合せ等	その他連絡調整情報収集等	計
2023年度	212	420	531	90	667		33	57	161	82	274	1,150	3,677
2022年度	71	192	296	28	275		13	18	128	51	127	465	1,664
2021年度	22	187	251	27	70	29	3	2	119	46	128	111	995

(6) 企画・広報

① 広報紙

ア 全戸配布版

「ハピネスなかの」全戸配布版の発行 年2回 各209,500部発行

6月 第182号 わたしたちがあなたのお住いの地域担当です

地域のみなさまとともに70周年（中野社協事業紹介）

第4次中野区民地域福祉活動計画を策定しています

ひきこもり支援事業・中野つながるフードパントリープロジェクト報告

2022（令和4）年度顕彰式・社協会員募集・なかの情報の活用

12月 第183号 地域活動いきいき募金にご協力お願いします

第4次中野区民地域福祉活動計画素案について

中野社協創立70周年記念式典・顕彰式開催

2022（令和4）年度中野社協事業報告 社協会員募集

イ 町会・自治会回覧版用広報チラシの発行 年2回 各10,000部発行

11月号 歳末たすけあい運動への協力をお願い

2月号 歳末たすけあい運動の報告

② 中野社協創立70周年記念式典 2023（令和5）年11月9日開催

第1部 記念式典・顕彰式 来場者287名

顕彰者総数 157名（団体を含む）

（内訳） 顕彰者

- ・民生児童委員 1名
- ・社会福祉施設 10名
- ・民間福祉団体 2名
- ・町会・自治会 32名
- ・友愛クラブ 16名
- ・ボランティア 18名
- ・社協事業協力者 36名
- ・他の模範とすべき地域福祉活動に取り組んだ青少年（団体・学校） 2団体
- ・地域福祉の向上に顕著な功績のあった方 1名

周年特別顕彰者

- ・社協の福祉事業推進のための寄付をした団体 6団体
- ・社協の会員増強に尽力のあった方（民生児童委員） 7名
- ・地域福祉の向上に顕著な功績のあった団体 26団体

第2部 アトラクション 民生児童委員協議会 はとの会による合唱
シンポジウム 想いをつなげよう 広げよう 未来へ
南中野ボランティアコーナー 代表 浮ヶ谷せつ子氏
文楽舎 代表 林誠氏
帝京平成大学人文社会学部 准教授 森川洋氏

③中野区報に記事掲載 22件

内容：ほほえみサービス会員募集、ファミリー・サポート事業会員募集、成年後見講座、
高齢者・障害者の無料法律相談、成年後見人勉強会、受験生チャレンジ支援貸付事
業、在宅福祉や障害者等団体の活動助成、福祉のしごと相談会

④ホームページ・FaceBook・公式LINE等のSNSの活用

事業の周知や報告、サロンの紹介などを写真も含め随時更新を行い掲載しました。
公式LINE登録者 656名

(7) 関係機関との連絡調整

①中野区町会連合会・民生児童委員との連携

- ア 中野区町会連合会、地区町会長会等に出席
- イ 民生児童委員協議会会長協議会、地区民協、合同民協等に出席
自主民協や各地区での研修会への協力、テーマに応じた職員派遣等

②区内社会福祉法人との連携

- ア 区内社会福祉法人等連絡会総会 4月27日(木)オンラインで開催
※役員会の開催（年3回実施）

※加入事業所 31法人 45事業所（2024年3月31日現在）

イ 協働事業プロジェクト

- ・相談支援型フードパントリーの実施（2023年7月～2024年3月）
社会福祉法人武蔵野療園 しらさぎさくら苑（さくらフードパントリー）
社会福祉法人中野区社会福祉協議会（ハピネスパントリー）
必要な方に随時食料提供を行う相談窓口を設置しました。
身近な地域の事業所で食料を受け取れる仕組みを20事業所と協働で実施
食料受け取り件数 14件

- ・北部子ども・子育て応援プロジェクトへの協力

北部すこやか福祉センター圏域にある社会福祉法人が子育て世帯を対象としたパント

リーに民生児童委員、ボランティアグループと協働で年3回実施しました。

9月30日 江古田の森 12月9日 江古田の森 2月17日 東京令和館中野

ウ 区内社会福祉法人の会議への出席

中野区福祉サービス事業団、武蔵野療園、中野あいいく会等の区内社会福祉法人、関係団体の役員又は運営委員として会合に出席

③中野区介護サービス事業所連絡会との連携

ア 中野区介護サービス事業所連絡会の事務局運営

総会1回、正副会長会11回、運営会議11回、全体研修1回を実施

※オンラインと対面のハイブリットで実施

イ 福祉のしごと・相談面接会の実施

福祉人材の確保を目的に、介護サービス事業所連絡会及び区内の障害者施設、社会福祉法人に呼びかけ、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行い実施しました。

日時:2023(令和5)年9月5日(火) 13:00~15:00 会場:中野区産業振興センター

参加事業所:20事業所(2022年度:21事業所)

参加者:62名(2022年度:78名) 採用人数:4名(2022年度:5名)

④関係機関等の会議への出席

- ・ 中野区シルバー人材センター、中野区友愛クラブ連合会、中野区保護司会、中野区福祉団体連合会等の各種会合に出席
- ・ 東京都社会福祉協議会部会、事務局長会等に出席
- ・ 中野区区民公益活動推進協議会、中野区健康福祉審議会、中野区障害者自立支援協議会、中野区要保護児童対策地域協議会、中野区地域包括支援センター運営協議会、中野区子ども・子育て会議、中野区国民保護協議会、中野区感染症審査協議会、中野区自殺対策審議会、中野区地域精神保健連絡協議会等の中野区の会議に委員として出席
- ・ 中野区地域包括ケア推進会議、すこやか地域ケア会議(南部・中部・北部・鷺宮)、中野区在宅医療介護連携部会、中野区認知症等対策部会、ひきこもり支援部会その他部会に委員として出席

(8) 財務

①一般寄付金:本会の当該年度の地域福祉事業に活用

101件 25,608,685円(2022年度:136件、15,465,172円)

②福祉基金:本会の安定した自主財源を確保することを目的に1985年4月に設置

積立累計額 211,796,489円(2022年度:211,796,381円)

積立額 108円(寄付収入0円、預金利子収入108円)

取崩額 0円

③ボランティア基金:ボランティア活動の振興を図ることを目的に1985年4月に設置。

積立累計額	87,279,690円 (2022年度:57,064,647円)
積立額	30,214,639円 (寄付収入30,214,841円、預金利子収入202円)
取崩額	0円

④中野・子ども未来応援基金：中野の子ども達を見守り、つながり、支えあう多様なネットワークの形成に取り組む継続的な事業活動に活用することを目的に2020年10月に設置。

積立累計額	10,285,875円 (2022年度6,558,546円)
積立額	3,727,329円 (寄付収入3,727,329円)
取崩額	0円

⑤人件費積立金：定年退職等により実際の退職金が引当金では不足する場合の充当

積立累計額	25,914,567円
積立額	0円

(9) 財務管理

資産運用について

福祉基金の運用について、安全かつ確実な運用に努めました。

現在保有額 静岡県公債・相模原市債 2件 60,315,000円

(10) 人事管理、職員の資質向上

①新たな研修体系等の検討

2017（平成29）年度に作成した「人材育成基本方針策定プロジェクトチーム報告書」をもとに、現在の研修体系を見直し、新たな研修体系の検討を行いました。中野社協の職員像を実現するために、外部の研修の受講やOJTの実施など進めていきます。

②目標管理シートによる日常業務の推進

2009（平成21）年度以来、各常勤職員の業務における目標管理を設定し、事業業務を効率的・効果的にすすめられるよう取り組むため、管理職と面談をしながら目標の進捗管理を行い、業務状況の確認や見直しを行ってきました。

目標管理制度と人事考課制度を組み合わせ、中野区の人事評価システムとの整合性を図り、新たな人事考課制度と任用制度（給与体系）での取り組みを行いました。

③職員研修の実施

2023（令和5）年度は70周年記念事業及び第4次中野区民地域福祉活動計画の策定などがあり、他団体主催の専門研修を中心に受講しました。地域担当者全体会や圏域ごとの打ち合わせを活用し、地域担当業務の情報共有を通じてスキルアップに努めた。2024（令和6）年度は、さらに常勤職員が増えるので、NPO法人福祉と市民活動研究所の協力のもと、研修を行います。

④他団体主催専門研修

全国社会福祉協議会研修（全国活動者会議等）、東京都社会福祉協議会研修（社協新人職員研修、在宅福祉サービス、地域福祉コーディネーター、権利擁護事業等）、東京都立中部総合精神保健福祉センター（精神保健福祉研修前期・後期）の専門研修等へ職員を派遣しました。

2. 地域福祉事業

（１）福祉何でも相談

①福祉何でも相談窓口の相談実績

2015（平成27）年6月に相談窓口を設け9年目となりました。生活費に関連した困りごとや、仕事探しに関する相談が多く、生活保護や中野くらしサポート、就労支援事業所などへつなげるなど他機関と連携し解決に向け取り組みました。また、立ち退き等の理由から引っ越しが必要な方からの相談も多く、不動産屋への同行など高齢者等の住み替えに関する相談への対応も行いました。

ひきこもり等の生きづらさを抱える方が、その方にあった活躍ができる地域づくり（ナカーノ・ナカーマの地域づくり）に向けて、地域団体のイベントの手伝いや就労体験など、様々な団体の協力により取り組みを進めることができました。

ア 相談件数

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規相談（人）	17	24	31	22	16	19	16	16	23	12	17	16	229
相談援助調整件数	350	390	575	600	470	529	579	438	334	434	372	441	5,512

<参考>

内容	2022年度	2021年度
新規相談（人）	201	232
相談援助・調整件数	2,533	3,045

イ 新規相談内容（複数回答有） (件)

内容	2023年度	2022年度	2021年度
①収入や生活費について	48	52	58
②ローンや債務について	5	12	4
③食べるものがない	10	11	17
④仕事探しや就職について	15	7	18
⑤家賃の支払いについて	5	5	11
⑥住まいについて	36	32	46
⑦ごみ屋敷について	1	4	6
⑧病気・健康・障害について	47	48	54

⑨福祉サービスについて	58	74	83
⑩地域の社会資源について	25	54	60
⑪地域との関係について	16	12	14
⑫ひきこもり・不登校について	6	8	23
⑬家族との関係について	22	20	30
⑭DV・虐待について	1	3	6
⑮子育てについて	0	1	2
⑯その他	45	27	29
合計	340	370	461

ウ 相談者の内訳 (人)

	2023年度	2022年度	2021年度
本人	141	124	121
家族	30	26	40
友人	12	7	9
民生児童委員	3	7	6
区民	4	12	12
関係機関	39	25	44
計	229	201	232

②大和すたんぷクラブ

ひきこもり等、生きづらさを抱えた方の居場所 ※毎月第2木曜日午後 12回実施

【2023年度】 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
参加者	7	4	6	6	6	2	6	8	7	7	9	6	74
スタッフ	2	1	2	2	1	7	2	2	2	2	2	2	27
支援者	1	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5
職員	3	2	3	3	3	4	2	1	4	3	2	1	31
合計	13	9	12	11	10	13	10	11	14	12	13	9	137

③鷺宮すたんぷクラブ

ひきこもりや生きづらさを抱えた方の居場所 ※毎月第4月曜日午後 12回実施 (人)

【2023年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
参加者	15	13	14	12	14	14	14	14	14	14	11	13	162

④外国ルーツの子どもの居場所

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
さぎのみや日本語	22	39	46	54		24	58	53	50	19	38	47	450
げつよう②④ひろば	24	38	22	44	58	39	21	36	46	22	21	36	407
合計	46	77	68	98	58	63	79	89	96	41	59	83	857

⑤広報活動

- ア ハピネスなかの（事業PR掲載） 年1回（6月）
- イ チラシ作成、民生児童委員協議会、各関係機関へチラシを配布（4、10、3月）
- ウ 地域ケア会議、支えあいネットワーク、アウトリーチチームとの会議等でチラシ配布
- エ 中野つながるフードパントリーにてチラシの配布（随時）
- オ 福祉何でも相談活動報告書の発行（11月）

（2）高齢者困りごと支援事業【中野区補助事業】

利用相談、活動件数は減少傾向ですが、「どこに相談して良いか分からない」という高齢者から、事業の活動内容には当てはまらない多岐にわたる分野の困りごと相談が増加しています。

相談者の困りごとの内容が電話相談ではわかりにくい場合は、サポーターや職員が訪問し、相談者の話を伺い寄り添いながら解決に向けて一緒に考えています。

依頼内容では、簡単な修理やほこり取りなどの簡単な掃除などが多くなっています。

高齢者困りごと支援事業で解決が難しい相談については、ほほえみサービス事業や福祉何でも相談等、社協全体で受け止め、関係機関と連携し困りごとを解決できるよう支援しています。

今後も、支援が必要な区民に必要な情報が届くよう事業周知に力を入れ、ニーズを掘り起こしていきます。

① サポーター登録数 (人)

年度	サポーター数	男性	女性
2023	136	84	52
2022	141	85	56
2021	141	85	56

② 相談・問合せ件数 (件)

年度	利用相談等	事業説明・ 問い合わせ等	活動依頼・ 調整	活動報告	その他 情報提供	合計
2023	231	41	1,142	95	242	1,751
2022	324	77	1,370	89	148	2,008
2021	354	60	1,209	72	84	1,779

③ 活動内容内訳

(件)

年度	電球の交換	簡単な修理 取り付け	家具や物の 移動	片付け・整 理	簡単な掃除	その他	合計
2023	49	65	25	18	50	36	243
2022	73	76	33	16	41	47	286
2021	59	95	31	12	28	34	259

④登録サポーター研修会

(人)

	開催日	テーマ	参加人数
1	7月6日	依頼者との円滑なコミュニケーションについて	16
2	11月18日	なぜボランティア活動が必要なのか？地域の力とボランティア活動を考える	14
3	3月25日	高齢者困りごと支援事業の活動を、支援機関の声と事例を通して一緒に考える	16
合計人数			46

⑤事業周知、広報活動

ア ボランティアスタート！説明会（新規）1回

夜間に実施。サポーター5名新規登録

イ チラシの配布 3,305部

主な配布先…町会・自治会、民生児童委員協議会、ひとり暮らし高齢者調査対象者、友愛クラブ連合会、区内関係機関、事業所、医療機関、まちなかサロン等

ウ 登録サポーター通信 3回発行（31号、32号、33号） 計2,950部

(3) 地域の居場所づくり事業

①まちなかサロン事業

※開設順 新規3件 終了2件

	サロン名	開始年月日	地区	実施回数	参加者 延人数	対象
1	アイアイ北野	2002年10月	新井	12	159	乳幼児親子
2	談話室アイアイ	2003年9月	弥生	21	211	どなたでも
3	なでしこ	2008年5月	東部	50	419	高齢者
4	あさひの家	2009年11月	江古田	22	669	どなたでも
5	かみさぎ	2010年7月	上鷺宮	42	665	どなたでも
6	おやすみ処 宮里	2010年9月	鍋横	48	150	高齢者
7	つぼみの会	2010年11月	野方	15	168	高齢者
8	ほっとサロン南口	2013年11月	桃園	23	677	どなたでも
9	おおざかい	2014年5月	鷺宮	12	97	どなたでも
10	しんやまの家	2014年6月	南中野	6	250	どなたでも
11	さくら	2014年8月	鍋横	10	59	高齢者
12	おきらくがやがや【休止中】	2014年9月	桃園	0	0	どなたでも

13	駒ちゃんサロン	2014年12月	鷺宮	12	321	どなたでも
14	いろり	2015年4月	東中野	21	298	高齢者
15	コスモス畑	2015年4月	江古田	22	243	どなたでも
16	ほんだ山	2015年5月	江古田	50	1664	高齢者
17	メリーさんのひつじ	2015年5月	新井	22	674	どなたでも
18	ふれあいサロン南台	2015年7月	南中野	12	61	どなたでも
19	和みます会？【終了】	2015年7月	弥生	0	0	高齢者
20	友・ゆう・YOU	2015年10月	桃園	37	139	中学生
21	サロンdeかみさぎ	2016年1月	上鷺宮	24	141	どなたでも
22	ふれあいカフェ	2016年10月	上高田	11	239	どなたでも
23	あなたの実家 ききみみサロン	2017年10月	野方	8	185	乳幼児親子
24	傾聴サロンやまと	2017年11月	大和	11	129	どなたでも
25	みんなの公園カフェ	2019年4月	上高田	11	240	どなたでも
26	仄仄	2018年8月	昭和	12	145	高齢者
27	弘子さんの家【終了】	2019年7月	野方	7	43	高齢者
28	堂楽サロン	2020年10月	東中野	6	57	どなたでも
29	段暖	2022年6月	新井	10	100	どなたでも
30	スープ生活の会	2023年1月	新井	11	97	どなたでも
31	江戸流手打ち蕎麦を楽しむ会 【新規】	2023年9月	上高田	7	86	どなたでも
32	スマホカフェ【新規】	2023年12月	新井	4	32	どなたでも
33	フラワーサロン【新規】	2024年2月	新井	2	24	どなたでも
計				561	8,442	

(参考 2022年度 580回実施 参加者 延7,282名)

②まちなかサロン連絡会

6月5日・6月12日開催 オーナー・スタッフ 30人参加
 サロン運営の悩みや取り組んでみたいこと等、情報交換を行いました。

③地域の居場所情報の収集および作成

6月から10月にかけて、地域担当職員による地域の居場所に関する情報収集を行った。

活動中 (うち新規)	休止	活動終了	その他	計
373 (35)	38	24	6	441

④介護予防に資する住民主体活動促進のための活動助成（区委託事業）

衛生用品、講師謝礼などの助成を行いました。 25団体

NO	団体名	地域	申請(円)
1	中野区若宮ラジオ体操会	大和	20,000
2	紅葉山公園ラジオ体操会	桃園	19,000
3	広町みらい公園ラジオ体操会	南中野	20,000
4	まちなかサロン メリーさんのひつじ	新井	20,000
5	まちなかサロン 段暖	新井	20,000
6	まちなかサロン ほっとサロン南口	桃園	20,000
7	鷺宮運動公園広場ラジオ体操会	鷺宮	19,700
8	STC (白鷺太極拳クラブ)	鷺宮	20,000
9	西住宅ゆる体操クラブ	鷺宮	20,000
10	まちなかサロン アイアイ北野	新井	20,000
11	まちなかサロン スープ生活の会	新井	19,000
12	やよいの縁側	弥生	20,000
13	おしゃべり処“郷”	弥生	20,000
14	中野区ラジオ体操会連盟 栄町公園	南中野	20,000
15	まちなかサロン いろり	東中野	20,000
16	がん哲学外来 白鷺メディカルカフェ	鷺宮	20,000
17	まちなかサロン なでしこ	東部	20,000
18	まちなかサロン みんなの公園カフェ	上高田	20,000
19	まちなかサロン スマホカフェ	新井	20,000
20	ことぶき新井	新井	20,000
21	まちなかサロン フラワーサロン	新井	20,000
22	かようお食事会	上鷺宮	20,000
23	ふれんず・ポコ	沼袋	20,000
24	まちなかサロン 傾聴サロンやまと	大和	20,000
25	叶夢道場	弥生	20,000
計			497,700

(4) ほほえみサービス事業【中野区補助事業】

ほほえみサービス事業は、区民の支えあいによる有料の在宅福祉サービスです。

利用会員登録者数は減少傾向となっています。安心のための登録というよりも、すぐにサービスを利用したい方の登録が目立ちました。一人暮らしの方も多く、コロナ禍以降、外出の機会と人とのつながりが減少している利用会員も多く見受けられました。利用会員の依頼内容では、掃除や食事の支度、買い物代行が多くなっています。

協力会員は微増となり全協力会員のうち7割が活動に繋がりました。「ちょこっと買い物代行」や草取りなど、単発・短時間の活動により、幅広い年代の方の活動参加に繋がっています。

①会員の状況

ア 会員登録数の推移 (人)

年度	協力会員	利用会員(世帯)	賛助会員
2023	246	582	48
2022	233	606	53
2021	252	617	50

イ 利用会員 登録：582世帯 811人 (新規登録：141世帯 175人)

利用会員世帯状況別 (世帯)

年度	高齢者 独居	高齢者 同居	高齢者 のみ	子育て 世帯	疾病 子育て	障害者・ 障害児	その他	合計
2023	248	143	112	9	7	48	15	582
2022	272	150	113	8	6	42	15	606
2021	273	153	113	12	7	41	18	617

ウ 協力会員 登録：246人 (新規登録：62人)

○性別内訳 女性 200人、男性 46人

○協力会員年代別人数 (人)

年度	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	計
2023	2	7	18	42	46	92	37	2	246
2022	3	9	11	40	44	88	37	1	233
2021	3	11	11	43	50	107	27	0	252

エ 賛助会員 48人

②事業説明会

協力会員説明会 (事業説明、協力会員登録手続き、活動の心構え等講習含む)

年間13回開催、説明会での登録者35名

③協力会員研修

ア 高齢者生活支援サービス担い手養成講座 (後掲)

全24回開催 協力会員参加者数 延べ42名

開催時期 7月～2月

イ 意見交換会 3月13日開催 参加者数 14名

④広報活動

ア 区報掲載 年11回

イ リーフレットの配布 年1回 2,500部

ウ 協力会員募集チラシ 年1回発行 1,000部

エ 会報「ほほえみ」発行 年1回発行 (5月) 2,000部

オ スマイルなかの1階自由通路及び3階廊下掲示板での事業ポスター掲示 通年
 カ ホームページ、facebook掲載 通年
 キ 区民のひろば、区のお知らせ板 年2回 55カ所

⑤ほほえみサービス事業運営委員会 3回開催

7月13日 2022（令和4）年度事業報告、2023（令和5）年度事業計画について
 12月21日 2023（令和5）年度中間実績報告、第4次中野区民地域福祉活動計画素案説明
 3月26日 2024（令和6）年度ほほえみサービス事業の取り組みについて

⑥利用（協力）件数及び時間数実績

ア 実利用会員数 429人 （全利用会員世帯の73.7%）
 イ 実協力会員活動人数 180人 （全協力会員の73.2%）
 ウ 利用件数 延べ 11,946件 （2022年度：延べ12,159件）
 エ 利用時間 延べ 17,997時間 （2022年度：18,124時間）

⑦利用（提供）件数内訳

ア サービス内容別件数 (件)

	掃除	食事の支度	外出付き添い	買い物代行	見守り・世話	衣類の洗濯	草むしり	子育て世帯への支援	片付け	その他	計
2023	6,682	1,532	921	1,238	347	374	154	102	295	301	11,946
2022	6,556	1,570	1,202	1,243	291	422	163	38	299	375	12,159

(5) 犯罪被害者等緊急生活サポート事業【中野区受託事業】

2011（平成23）年6月に開始した、犯罪被害者等へ家事・育児・外出援助等を支援する緊急生活支援協力員を自宅に派遣する事業です。2020（令和2）年4月より中野区犯罪被害者等支援条例が制定され、支援内容が充実しました。日常生活支援においては、利用できる時間数が増えたことにより今年度の派遣依頼は21件でした。

犯罪被害に遭われた方がサービスの利用が必要になったとき、対応できるよう、犯罪被害に遭われた方の支援活動を行う緊急生活支援協力員の養成研修を実施しました。

① 緊急生活支援協力員数 15名 （2024年3月末現在）

② 緊急生活支援協力員養成研修（公開講座） (人)

	開催日	内 容	参加延べ人数
1	10月18日	中野区における犯罪被害者等相談支援	9
2	12月15日	地域活動としての犯罪被害者支援	14
3	1月31日	犯罪被害に遭われた方の声に耳を傾ける	16
		合計（延べ人数）	39

③ 利用件数及び時間数実績

ア 申請者数	1人
イ サービス提供件数	21件
ウ サービス提供時間数	21時間

(6) 地域活動応援！講座

7月開講、全43講座の実施となりました。フレイル予防、高次機能障害、子どもの生きづらさへの理解など新しいテーマを扱う講座も実施しました。

会場での講座受講の他、ZOOMを使用したオンライン講座も継続し、オンラインを生かして区内大学生が参加できる機会を設けました。

11月に「地域活動案内会」として個別に職員が相談に応じ受講者の希望に合った内容の講座や地域活動を案内しました。

- ① 講座開催期間 2023年7月5日 ～ 2024年1月31日
- ② 参加者 実人数 490名
参加者延 847名 (ほかに「地域活動相談会」 5名)
- ③ 講座内訳 全43講座
(内訳：オンライン (ZOOM) を使用した講座：9講座)

	内訳	講座数
ア	市民後見人養成講座・権利擁護に関する講座	1
イ	ほほえみサービス事業協力会員研修 高齢者生活支援サービス担い手養成講座 犯罪被害者等緊急生活サポート事業協力員研修	25
ウ	ファミリー・サポート事業協力会員養成講座	11
エ	ひきこもりの方への支援と課題についての講座	1
オ	障害等の理解を促進するための講座	2
カ	ボランティア相談員研修 ボランティア養成講座・地域活動体験	1
キ	災害ボランティア協力員養成講座	2

(7) 高齢者生活支援サービス担い手養成講座【中野区受託事業】

中野区より2016（平成28）年度から受託しています。介護予防・日常生活支援総合事業として住民主体サービスのスタッフ研修として位置付けられており、また、高齢者生活支援サービスに関心があり、地域での住民主体活動を希望する区民も対象にしています。

2023（令和5）年度は7月から2月までの8か月間で全24講座を実施しました。感染症対策を講じつつも参加者の規模に応じて会場・オンラインの講座を開催しました。介護保険制度をはじめ、高齢者支援の考え方や方法を総合的に学ぶことに加え、お口のフレイルや高次脳機能障害など年齢とともに表面化してくる身体的課題をテーマに加えることで参加率の向上、知識の習得やスキルアップを図りました。

①講座科目

- ・介護保険制度・中野区の地域包括ケアシステム ・住民主体サービスの意義 ・地域活動におけるリスクマネジメント ・高齢者のからだと病気 ・認知症サポーター養成講座 ・グループケア ・こころのしくみ（精神疾患の理解）・コミュニケーション技術 ・外出支援技術 ・お口のフレイルを知る ・高次脳機能障害（前期のみ） ・ヤングケアラー支援（後期のみ）・普通救命講習会 全13科目24回実施

②参加者数

前期・後期 延べ310名。

（8）ひきこもり支援事業【中野区受託事業】

ひきこもり状態にある本人や家族の相談に、電話やメール、面談、訪問等を通じて対応しました。相談の内容に応じて、必要な窓口への同行や家族会へつなぐこと、継続した面談や訪問など、一人ひとりのニーズに応じた支援を行いました。

新たな取り組みとして、ひきこもりサポーター養成講座を開催して必須講座を受講した18名が登録につながりました。また、ひきこもり合同相談会を関係団体の協力により開催し、ひきこもりに悩む本人や家族が相談窓口につながる機会になりました。

① ひきこもり相談

ア 相談件数

2023年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規相談 (人)	6	5	9	5	5	3	4	4	4	6	5	6	62
相談援助 調整件数	114	116	117	119	92	86	166	211	283	158	167	192	1,821

<参考>

2022年度	合計
新規相談 (人)	70
相談援助 調整件数	1251

イ 相談者の内訳 (人)

	2023年度	2022年度
本人	13	21
家族	27	33
区民	4	2
関係者	18	14
計	62	70

ウ 支援対象者の年齢 (人)

	2023年度	2022年度
15歳以下	2	2
16～39歳	22	25
40～64歳	18	21
65歳以上	2	2
不明	18	20
合計	76	70

エ 支援対象者の性別 (人)

	2023年度	2022年度
男性	28	35
女性	21	27
不明	13	8
計	62	70

オ 支援対象者のひきこもり期間 (人)

	2023年度	2022年度
2年未満	11	9
2年以上10年未満	13	12
10年以上	10	22
不明	28	27
合計	62	70

カ 相談内容 (重複あり) (人)

	2023年度	2022年度
経済的なこと	14	11
生活のこと	9	15
体のこと	5	6
人間関係のこと	1	4
近所との関係	1	1
家族のこと	36	15
その他	20	34
合計	62	86

キ 新規相談者への対応 (人)

	2023年度	2022年度
ひきこもり支援事業で継続	34	39
すこやか福祉センターを案内	0	0
居場所・家族会を案内	3	7
医療機関を案内	0	0
相談のみで終了	24	10
その他	1	14
合計	62	70

② カタルーベの会

ひきこもり当事者、家族の語り合う居場所です。毎月第2金曜日午後 10回実施

【2023年度】

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
当事者	7	7	6	6	7	8	6	6	12	6	7	8	86
家族	2	3	2	1	1	1	1	1	2	1	1	1	17
支援者	2	0	0	0	1	0	2	1	1	0	2	3	12
見学者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
スタッフ	5	4	3	5	3	3	4	5	7	5	5	5	54

ひきこもりサポーター	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	1	1	8
職員	2	2	2	3	2	2	2	2	2	2	4	1	26
合計	18	16	13	15	14	14	15	15	27	17	20	19	203

ア ムービー☆パラダイス驚宮 (6月、7月) 延べ20名

イ カタルーベの会 講演会 (10月) 「オープンダイアログについて」 49名

講師：ゆうりんクリニック 精神科医 森川 すいめい 氏

ウ カタルーベの会 音楽会 (7月、3月)

③中野わの会

ひきこもり当事者、家族の語り合う居場所です。毎月第2金曜日午後 11回実施

【2023年度】

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
家族	4	7	7	7	4	7	6	4	5	4	4	9	68
支援者	2	2	1	1	1	3	1	0	1	3	1	6	22
見学者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
スタッフ	3	3	3	3	3	2	2	3	3	3	3	3	34
職員	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
合計	11	14	13	13	10	14	11	9	11	13	10	23	152

④ひきこもりサポーター養成講座

ア 1回目「ひきこもりを知る」 (7月) 59名

講師：ジャーナリスト/NPO法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会 副理事長 池上 正樹 氏

イ 2回目「ひきこもり当事者や家族によりそう」 (8月) 45名

講師：白梅学園大学名誉教授 長谷川 俊雄 氏

ウ 3回目「ひきこもり当事者の思いを知る」 (8月) 41名

講師：一般社団法人ひきこもりUX会議 代表理事 林 恭子 氏

エ 4回目「居場所や家族会が果たす役割を知る」 25名

講師：立正大学心理学部臨床心理学科 准教授 徳丸 享 氏

オ 5回目「ひきこもりサポーターの役割」 32名

講師：社会福祉法人総社市社会福祉協議会

⑤ひきこもりサポーター定例会

ア 1回目 (11月17日) 13名

イ 2回目 (2月26日) 10名

ウ 3回目 (3月25日) 8名

⑥ひきこもり合同相談会の開催 (7月) 延べ27名

3. ボランティア活動推進事業

(1) ボランティア活動推進事業（中野ボランティアセンターの運営）

① ボランティア相談事業

区民のボランティアが相談員として、ボランティア登録やボランティアに関する情報提供、ボランティアの紹介などを行いました。

コロナ禍を経て福祉施設からのボランティア受け入れが少しずつではありますが再開しています。また個人・団体のボランティア活動ニーズもコロナ禍を経て、再び高まっています。地域とのつながりを期待し活動を希望する方や新規登録者も徐々に増えてきています。ボランティア依頼者とボランティア活動希望者が安心して活動ができるようコーディネートの実施を図っていきます。

2023年度	2022年度	2021年度
424（団体4含む）	391（団体2含む）	406（団体2含む）

イ 男女別・年代別内訳 (人)

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	合計	団体
男	0	13	20	27	28	22	48	23	181	4
女	12	13	11	12	41	50	67	33	239	
計	12	26	31	39	69	72	115	56	420	424

ウ 月別ボランティア活動相談及び紹介件数 (件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談件数	213	221	228	203	290	217	312	318	407	273	218	211	3,111
紹介件数	2	7	4	4	7	3	8	9	3	5	6	2	60

エ 依頼元 (人)

	個人	団体・施設	計
件数	15	69	84

オ 新規依頼内容（※重複あり）

	依頼内容	件数
1	話し相手・傾聴	6
2	外出介助・送迎	2
3	家事援助（料理・掃除）	4
4	手芸・縫製	0
5	保育	2
6	特技披露（演芸・音楽）	16
7	特技指導（書道・絵手紙・折り紙）	2
8	囲碁・将棋・麻雀	2

9	行事・イベント・まつり	16
10	学習指導	3
11	作業補助・余暇活動	17
12	ボランティアグループ・団体運営補助	1
13	その他	14
	計	85

カ ボランティア相談員の活動

- ・ボランティア相談員 15名（研修4名含む）
- 延活動回数 1,106回（実態調査訪問・紹介訪問・研修・事業協力）
- ・ボランティア相談員会議 毎月2回 24回開催（オンライン会議を含む）

キ 登録ボランティア等の活動

- ・使用済み切手の整理ボランティア（切手きるきるの会）
活動日：毎月第2・4木曜 23回 参加者 延263人（昨年度286人）
- ・手作り作品の会
活動日：毎月第1・3金曜日 20回 参加者 延142人（昨年度135人）
手作り作品の販売を行い、売上金をボランティア基金に全額寄付していただいた。
- ・おしゃれたわしの会
活動日：毎月第1水曜日 10回 参加者 延67人（昨年度97人）
アクリル毛糸でアクリルたわし（エコたわし）を作成し販売
- ・かがり火会
活動日：毎月第4火曜日（12回活動）参加者 延110人（昨年度124人）
中野ボランティアセンター広報紙「そよかぜ」の封入作業や、フードパントリーの袋詰めやボランティア保険のセット組等の活動
- ・ボランティアスタート！説明会（新規・再掲）1回
高齢者困りごと支援事業とともに実施。平日夜や土日に活動できる勤労者のボランティア登録促進。1月17日（水）ボランティア7名登録
- ・地域活動案内会（再掲）
地域活動応援！講座の一環でボランティア相談員とともに実施、高齢者困りごと支援事業PRやボランティア相談が気軽に行える機会を実施。11月13日（月）5名参加

ク ボランティア保険受付人数 (人)

2023年度	3,549
2022年度	3,887
2021年度	4,894

② 情報提供・収集事業

- ア 「そよかぜ」（ボランティア情報）の発行

2023年度	4,000部	A4版4ページ、年4回発行
2022年度	4,000部	A4版4ページ、年4回発行
2021年度	4,000部	A4版4ページ、年4回発行

イ 総合相談（ボランティアセンターに寄せられた相談）

・ボランティア、地域活動団体相談及び調整件数 (件)

相談団体	2023年度	2022年度	2021年度
ボランティアグループ	1,146	807	938
NPO法人	183	202	146
市民活動団体（福祉団体含む）	487	500	501
福祉施設	203	176	242
学校関係（総合的な学習の時間・奉仕の時間等）	170	113	181
行政機関	529	690	587
その他（個人、登録V、企業、団体）	6,845	4,316	4,127
合計	9,563	6,804	6,722

・相談内容 ※重複有

内容	件数
ボランティア相談	1,257
寄り添い支援	135
ネットワーク	900
物品寄付	306
まちなかサロン	196
地域の居場所	397
人材養成	92
情報収集・発信	116
保険	215
助成	503
その他（その他+普及啓発）	1,584
計	5,701

③ 養成・研修講座

ボランティア養成講座（再掲：地域活動応援！講座として開催） (人)

開催月	内容	参加人数
7月	子どもたちの抱える生きづらさの理解～わたしたちにできること～	20
7月	ひきこもりを知る	55
8月	わたしとあなたを繋ぐ居場所の探し方	12

8月	災害時の一番の困りごと～トイレを考える～（会場：50名 オンライン：162名）	212
11月	ひとり親家庭支援について	13
12月	災害ボランティア講座 中野の地域の力を考えよう （会場参加：28名 オンライン：89名）	117
計		429

地域活動応援！講座と連動させ、幅広い内容の講座を1科目から受講することができ、地域課題を知り、ボランティア活動を始めるきっかけとなりました。新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインでの開催も行いました。

④ 出前ボランティア講座

ボランティアグループや学校、市民活動団体等が実施する講座への協力、講師派遣等 4件
（帝京平成大学、明和中学校）

⑤ 協働事業

ア 地域活動応援講座（再掲）

- ・8/26（土）地域活動応援！講座「災害時の一番の困りごと～ト・イ・レを考える～」

※東京都生活協同組合連合会との共催講座の実施

参加者 212名（会場参加：50名 オンライン：162名）

- ・12/16（土）地域活動応援！講座「災害ボランティア講座 中野の地域の力を考えよう！」

※東京都生活協同組合連合会との共催講座の実施

参加者 117名（会場参加：28名 オンライン：89名）

イ 1/11（木）防災カフェ@なかの

※東京都生活協同組合連合会と協力してオンラインで実施

参加者 7名

ウ 障害者等団体活動との共催講座

- ・10/30（月）「障害のある方のための成年後見制度」

※中野区重症心身障害児者を守る会との共催講座

参加者 30名

- ・12/12（土）「子どもの育ちと『きょうだい』へのサポート～ライフステージに沿って考える～」

※きょうだい児と家族の応援団 にじいろもびーるとの共催講座

参加者 12名

⑥ 活動支援ネットワーク事業

ア 地域ボランティアコーナー総会や懇談会等へ参加 32回（2022年度 6回）

※本年は、「市民社会をつくるボランティアフォーラム2024」実行委員会のメンバーになったこともあり、地域の活動支援ネットワークと関わる機会が例年よりも多くありました。

イ 障害者団体等自主製品展示即売会（地域のカマルシェ薬師あいロード広場）

障害者への理解促進を目的に、障害者団体等の自主製品の販売を実施しました。薬師あいロード広場に会場使用の協力をいただきました。

参加団体 5団体（全11回）

ウ こどもほっとネットinなかの

（居場所づくりに取り組む子ども食堂や学習支援のネットワーク）

4月6日 情報交換会 18団体24名参加

12月13日 学習支援団体情報交換会 11団体18名参加

3月13日 情報交換会 22団体28名参加

エ 市民社会をつくるボランティアフォーラムTOKYO2024実行委員会への派遣

東京都社会福祉協議会 東京ボランティア・市民活動センター主催事業

「市民社会をつくる ボランティアフォーラム」開催に向けて、企画運営を行う職員1名派遣

⑦ 災害ボランティア関係

ア 災害ボランティア協力員養成講座の実施

開催月	内容	参加人数
8月	災害時の一番の困りごと～トイレを考える～（再掲） 共催：東京都生活協同組合連合会	212
12月	災害ボランティア講座 中野の地域の力を考えよう（再掲） 共催：東京都生活協同組合	117

ボランティアまたは地域住民として防災・減災に取り組む人材のすそ野を広げることを目的とし、地域の災害対策や平時から必要な備えについて学ぶ機会を設けました。

イ 災害ボランティアセンター運営訓練の実施

「なかの災害ボランティアセンター立ち上げマニュアル」に基づき、ボランティアの受け入れを100名程度と仮定した小規模なレイアウトで実施し、災害ボランティアセンターの基本的な流れを確認しました。

1月30日（月） 参加者 42名

（参加団体：東京都生活協同組合連合会、中野区防災危機管理課、ボランティア相談員、登録ボランティア、帝京平成大学、練馬区社会福祉協議会、豊島区民社会福祉協議会、板橋区社会福祉協議会、品川区社会福祉協議会等）

ウ 防災カフェ@なかの

東京都生活協同組合連合会と協力してオンラインで実施

1月11日（木） 参加者 7名

エ 都内一斉募金募金の実施

2024（令和6）年1月1日に発生した令和6年能登半島地震を受けて、東京都社会福祉協議会 東京ボランティア・市民活動センターと 災害協働サポート東京（CS-TOKYO）の提案により実施しました。区民やボランティア団体等とともに義援金及び支援金の募金を呼びかけました。

- ・ 1月27日（土） 中野駅北口 参加者 24名 募金総額 204,901円
- ・ 2月24日（土） 中野駅北口 参加者 20名 募金総額 99,666円

⑧ 一般管理

ア ボランティア活動室の運営

ロッカー、印刷機、点訳用プリンター・パソコン貸出し 222件

イ ボランティア活動物品の貸出し

高齢者疑似体験セット、点字体験用具、イベント用テント、発電機、マイク、白杖、アイマスク等 15件

ウ 車いす貸出し

貸出し期間 区民は1か月無料（やむをえない場合は、最長3か月）

82件〔個人74件・団体8件〕

エ 中野ボランティアセンター運営委員会の開催 3回開催

7月21日 2023(令和5)年度事業計画、意見交換「地域の活動者を広げるために、どのような取り組みが必要か」

12月22日 2023(令和5)年度中間事業報告、意見交換「団体運営をするうえで困っていること、サポート があるといいこと」

3月24日 2024(令和6)年度中野ボランティアセンター事業について、意見交換「孤立を生まな
いためにどんな居場所があるといいか、どんなことができるか」

(2) 区内避難者の寄り添い支援事業【東京都社会福祉協議会補助事業】

2011（平成23）年9月より東京都社会福祉協議会の補助事業として、東日本大震災で中野区内に避難者されている方を対象に、「避難者の孤立化防止事業（寄り添い支援事業）」を開始しました。

電話に切り替えていた戸別訪問は、感染対策に配慮しながら少しずつ自宅への訪問を再開し、対面でも状況確認や声かけをしました。サロン活動においては、新型コロナウイルス感染症に応じて屋外実施や、オンラインを活用し実施しました。オンラインを活かし、他区や遠方の方と繋がることもできました。

① 訪問事業

電話訪問・戸別訪問 146件

② 交流事業

ア サロン事業

「来らっせしらさぎ」の運営 毎週金曜日10:00～11:30 スタッフ5人（避難者含む）

実施回数 46回 延参加人数 944人

イ 専門相談

健康相談（保健師） 相談件数 68件

弁護士相談 相談件数 16件

高齢者相談 相談件数 12件

心の相談 相談件数 47件

ウ イベントサロン(交流事業)

	プログラム	参加者(人)	備考
1	さぎろくはたけ365	458	全49回実施 一滴一風会・中野区と共催
2	来らっせ夏祭り	30	
3	来らっせハロウィン祭り	29	
4	来らっせクリスマス会	31	
5	3.11セレモニー	27	

③ ネットワーク事業

ア. ネットワーク会議の開催 2回(10月、3月) ※オンラインでの開催

イ. 参加メンバー

中野区(鷺宮すこやか福祉センター)、民生児童委員、鷺宮住宅自治会、鷺宮地域包括支援センター、弁護士、東京都、東京都社会福祉協議会、東京都生活協同組合連合会、茨城県立医療大学(保健師)、東京公認心理師協会、中野傾聴ボランティアきくぞう、一滴一風会、宮城県、福島県

④ 情報提供

情報紙Smile!の発行 4回 各1,000部 区内避難者および関係団体、関係機関へ送付

※避難者については、区より送付

(3)被災地支援の取り組み

宮城県東松島市との連携

相互支援活動に関する協定に基づき、双方の社協の現状と情報交換を行っています。

4. 生活困窮者自立支援事業(小学生学習支援事業 しいの木塾)【中野区受託事業】

2015(平成27)年度より中野区の委託事業として、中野区内在住で、就学援助を受けている世帯の小学5年生の子どものうち、希望者を対象にして学習支援事業を実施しています。

2023(令和5)年度は、学習支援実施会場を1か所増設し、6ヵ所の公共施設等で実施しました。

地域の社会人、大学生等に学習支援スタッフ、ボランティアとして協力を得て、学習面を支えるだけでなく、子ども一人ひとりに寄り添う場となるよう取り組みました。

2023(令和5)年度でこの事業の受託は終了となりますが、これまで学習支援事業に携わっていたスタッフ、ボランティアの経験をいかし、子ども達が安心して参加できる新しい居場所づくりを進めています。

(1) 事業実績

①開催回数 28回

②参加者数

子ども…59人 学習支援スタッフ参加人数…延べ879人

(2) 相談実績

①保護者相談

	内容	件数
1	学習相談	11
2	事務連絡(出欠)	519
3	福祉相談	3
4	その他	1203
	計	1,736

②関係機関、スタッフ等との調整

	関係先	件数
1	行政	118
2	教育アドバイザー	153
3	リーダー、スタッフ	1,792
4	会場	32
5	その他	101
	計	2,196

③戸別訪問・面談 47件

(3) その他

夏休み交流イベント「クラフトパンチアートとペーパークイリング!～あなたの夏の思い出の写真を飾ってみよう!～」参加者 13名

5. 助成事業(共同基金を財源とした助成事業)

(1) 地域福祉活動助成

町会・自治会が行う地域福祉事業に対して助成を行いました。

新型コロナウイルス感染拡大により、2022(令和4)年度に比べ、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、集まらない方法やこれまでの実施方法を見直し、工夫しながら地域での取り組みを進める町会・自治会が増えました。

年度	助成団体数	助成確定額(円)
2023	98	7,183,000
2022	96	7,393,961

2021	96	4,284,348
------	----	-----------

<助成事業内容>

交流事業

- ・ 地域の誰もが参加できる交流事業（餅つき、夏祭り、運動会、バスハイク等）101事業

地域事業

- ・ 高齢者中心の地域事業（敬老会、落語会など） 5事業
- ・ 乳幼児・児童中心の地域事業（新入学児童のお祝いなど） 11事業
- ・ 環境美化・防犯・防災に関する地域事業（清掃活動、防災訓練など） 8事業

(2) 福祉施設地域活動助成

福祉施設が地域住民とともに実施する年間を通じての地域事業に対して助成を行いました。新型コロナウイルス感染拡大により、施設の開放が難しい中、地域との交流を工夫しながら実施するところが、2020年度より多くありました。

年度	助成団体数	助成確定額(円)
2023	28	1,370,000
2022	27	1,340,000
2021	27	930,900

助成事業内容

交流事業

- ・ 地域住民、ボランティア等の参加があり、この事業をきっかけに多くの地域住民が施設を知り、施設利用者と交流し参加できる事業
(納涼祭、ボランティア感謝の集い、クリスマス会など) 28事業

地域連携事業

- ・ 地域団体やほかの事業所と連携した取り組み 2事業

(3) 在宅福祉活動助成

高齢者、障害者、児童等を対象とした在宅福祉活動や居場所づくりに取り組むボランティアグループ及び団体に対し、活動費の一部を助成しました。2023（令和5）年度は、申請額が予算を大幅に上回り、一律70%按分での交付となりました。

助成団体に対し、予定した活動がやむを得ず中止となる場合も、他の助成項目や代替活動に係る経費に柔軟に助成金を活用できるよう相談に乗りました。また、助成事業を生きづらさ等の課題のある区民の活躍の場を広げる機会としてもらうために、2021年度より設けている助成項目「活躍の場づくり費用」は、6団体が活用し、延べ25名の対象区民が参加・活躍しました。

年度	助成団体数	助成確定額(円)
2023	26	2,400,307

2022	22	2,428,887
2021	23	1,896,769

<助成団体及び内訳>

	団体名	助成額(円)	内訳(円)			
			地域の支えあい活動運営費	地域交流活動費	新しいチャレンジ活動費	活躍の場づくり費
1	江古田ボランティアネットワーク	39,173	14,000	25,173	0	0
2	上高田ふれあいの会	98,000	49,000	49,000	0	0
3	やよいボランティアコーナー	125,000	70,000	55,000	0	0
4	オアシスなべよこ	91,000	35,000	56,000	0	0
5	東部あいあいステーション	42,000	42,000	0	0	0
6	桃園デイクラブ	25,428	25,428	0	0	0
7	ドロップインほっとほっと	139,000	47,000	50,000	42,000	0
8	きんぎょの会	70,000	24,000	42,000	0	4,000
9	中野子ども電話	90,000	34,000	56,000	0	0
10	NPO法人 ここからプロジェクト	136,000	65,000	0	63,000	8,000
11	おやぎょう「虹のかけ橋」	63,000	49,000	14,000	0	0
12	kodomore	139,000	67,000	52,000	0	20,000
13	えほんぶ	30,000	30,000	0	0	0
14	上鷲テラス ベビーカフェ ほっこり亭	126,000	70,000	56,000	0	0
15	Nakano Clover	132,000	70,000	56,000	0	6,000
16	あしゅみくり	126,000	70,000	56,000	0	0
17	花みずきの会	19,893	8,202	11,691	0	0
18	オレンジカフェとんぼ	49,000	49,000	0	0	0
19	オレンジカフェさぎのみや	126,000	70,000	56,000	0	0
20	なべカフェ	91,000	49,000	42,000	0	0
21	きくぞう	59,813	59,813	0	0	0
22	NPO法人女性のスペース結	84,000	70,000	14,000	0	0
23	NPO法人ゆるなか	136,000	70,000	56,000	0	10,000
24	中野ハナミズキの会	146,000	14,000	42,000	70,000	20,000
25	中野まちのエンガワ・プロジェクト	91,000	70,000	21,000	0	0
26	旅するカフェ	126,000	70,000	56,000	0	0

合計	2,400,307	1,291,443	865,864	184,000	68,000
----	-----------	-----------	---------	---------	--------

(4) 障害者等団体活動助成

障害者団体が行う普及啓発講座、講演会、宿泊旅行、レクリエーション、広報発行費等に活動経費の一部を助成しています。

障害者団体がコロナ禍の中でも活動しやすくなるよう、電話や手紙といった非対面の交流活動経費の助成や団体による新しい取り組み、オンラインを活用した事業に対しての助成を実施しました。

2023年度は広報力強化のための広報講座の実施や、助成項目についても新たに団体のリーフレットや広報紙の作成を行う場合に助成の加算を行うなど、助成金を通じた団体支援を行いました。

年度	助成団体数	助成確定額(円)
2023	23	3,815,775
2022	18	3,404,109
2021	17	2,466,912 (※第2次募集の合計も含む)
2020	17	1,857,707 (※第2次募集の合計も含む)

<助成団体及び内訳>

団体名	助成額(円)	1. つながりづくり活動費①(人)	1. つながりづくり活動費②(人)	1. つながりづくり活動費③(人)	1. つながりづくり活動費④(人)	2. 地域に応援の輪を広げる活動費①(人)	2. 地域に応援の輪を広げる活動費②(人)	2. 地域に応援の輪を広げる活動費③(人)	3. 広報誌発行経費(部数)①	3. 広報誌発行経費(部数)①	3. 広報誌発行経費(部数)①	4. 新しいチャレンジ活動費(人)
スマイル・スマイル	246,000	9	15									
たんぼぼ会	111,000	33	58			22	18					
中野区愛育会	436,000	79	30			35	20	69	1,200	2,000	5,000	
中野区原爆被害者の会	60,000	10	8						500			
NPO法人中野区視覚障害者福祉協会	296,000	30	26	44					200			
中野区障和会	212,176	23	18									
中野区聴覚障害者福祉協会	168,455	25	25									
中野区福祉団体連合会	346,000	63	26			28				1,000		
中野パーキンソン病友の会	156,000	22	36									
中野区肢体不自由児者父母の会	94,944	27							150			
中野区手話リズムダンス協会	186,000	38	20	5					700			

中野区中途失聴・難聴者の会	306,834	19	159	21	39	111			900	200	50	
中野区失語症友の会 こまどり	126,000	125							500			
中野区重症心身障害児(者)を守る会	141,150	28				25			1,200			11
ぶらいまりい中野	60,000	70										
中野区茶道サークル	40,000	240	8	23								
ユニークダンスを楽しむ会	932,16	27	18									
きょうだい児と家族の応援団 にじいろもびーる	96,000					42			800	1,600		
中野わの会	67,000	65	33									
カタルーベの会	75,000	202				49						
中野区ひとり親家庭福祉協議会	123,000	9										
にじいろでんでんむし(新規)	129,000	65	63									
障害児の休日クラブ(新規)	246,000	60	22									
計	3,815,775	1,269	565	93	39	312	38	69	6,150	4,800	5,050	11

①障害者等団体助成広報力UP講座

9月19日(火) 参加者 19名

(5) 区民団体活動助成

区民団体活動が行う宿泊旅行、レクリエーション、講演会、社会を明るくする運動等に活動経費の一部を助成。

<助成団体及び内訳>

団体名	助成額(円)	レクリエーション(人)	講演会・講習会(人)	広報紙(部数)	防災への取り組み(人)	地域の支えあい活動(人)
中野区保護司会	586,986	2,250	400	7,000		80
中野区友愛クラブ連合会	600,000	344	2,437	8		455
計	1,186,986	2,594	2,837	7,008	0	535

(6) ボランティア・NPO団体立ち上げ助成事業

申請4団体 助成4団体 計400,000円助成

団体名	申請内容	申請額(円)	交付額(円)
フリースクールito-いと-	不登校児童の居場所づくり	100,000	100,000
つくる・つながる会	地域交流を目的としたアートワークショップ	100,000	100,000
メドフィカ	特別支援学校でのコンサート事業	100,000	100,000
こころのサポートびよぼこ中野	流産死産を経験した親のためのピアカフェ事業	100,000	100,000
計		400,000	400,000

(7) 中野区民ふれあい運動会

第39回中野区民ふれあい運動会へ300,000円助成

6. 生活福祉資金貸付事業【東京都社会福祉協議会受託事業】

低所得世帯や障害者世帯、高齢者世帯に無利子または低利で福祉資金・教育支援資金等の他、緊急小口資金の貸付を行っています。また、失業等により生計維持が困難となった世帯に対し、世帯の自立支援を目的として、生活再建への支援と生活費等の貸付として総合支援資金があります。さらに、高齢者世帯対象の不動産担保型生活資金貸付では、土地・建物を所有し、その住居に住むことを希望する高齢者世帯に、その土地、建物を担保として生活資金の貸付を行います。

2023（令和5）年度は、2020（令和2）年3月から2022（令和4）年9月末までの約2年半に亘って実施していた特例貸付（※）が終了し、貸付相談は減少しました。一方で、2023（令和5）年1月からは特例貸付の償還が始まり、償還に関する相談は増加しており、世帯の状況に合わせた償還免除・猶予等の相談にも対応しています。

相談者は、長引くコロナの影響や物価高騰による収入の減少及び支出の増加によって、生活再建の目途の立たない状態にある方が多く、健康上の問題や家族・親族等社会的なつながりの欠如など複合的な問題を抱えています。そのため、福祉事務所、中野くらしサポートなどの公的な窓口から、食料支援のNPO等までを含めた適切な機関と連携しながら家計・就労・生活支援を一体的に行い、相談者の抱える多様な課題に対応しています。

（※）中野区社協の特例貸付受付件数は延べ27,281件

(1) 新規相談件数

669件（2022年度：3,422件 2021年度：11,877件）

(2) 相談件数（延べ件数）

相談件数：1,920件（2022年度：8,419件 2021年度：28,933件）

償還相談件数：1,144件（2022年度：1,080件 2021年度：362件）

(3) 新規貸付決定件数

35件（2022年度：36件 2021年度：19件）

<貸付件数内訳>

資金種類	資金目的・内容	件数	金額（単位：円）	
緊急小口資金		3	245,000	
総合支援資金		1	400,000	
福祉資金	福祉費	転宅費	4	1,165,000
		技能習得費	1	1,776,000
		その他(エアコン、冷蔵庫)	4	288,000
教育支援資金	教育支援費・就学支度費	22	25,341,000	

※2023年度に貸付決定された資金種別のみを掲載

(4) 償還状況

(単位：円)

資金名	2023年度償還予定額	2023年度償還額実績	償還率 (%)
福祉資金	1,126,787 (8,181,900)	921,067 (1,012,047)	81.74% (12.37%)
緊急小口資金	200,750 (5,832,795)	168,430 (288,430)	83.9% (4.94%)
教育支援資金	33,906,780 (70,833,216)	23,851,960 (26,290,680)	70.35% (37.12%)
総合支援資金	4,783,825 (119,364,386)	2,243,684 (3,624,928)	46.9% (3.04%)

※ () 内は、償還期限後債権、長期滞留債権なども含めた金額、償還率。2023年度償還予定があるもののみ掲載。いずれも元金のみ。

7. 受験生チャレンジ支援貸付事業【中野区受託事業】

2025(平成27)年度より中野区から受託しています。受験生チャレンジ支援貸付事業は中学3年生、高校3年生の子どもがいる低所得世帯を対象に、学習塾の受講料と高校・大学の受験料の貸付を行います。進学後、手続きを行うことで返済が免除となります。また、2022(令和4)年4月より、収入要件が緩和され、周知も進んだことから、貸付件数が増加傾向にあります。

貸付件数

(単位：件)

年度	塾費用貸付	受験料貸付	計
2023	100	107	207
2022	96	108	204
2021	54	57	111

8. 福祉サービス利用援助事業(地域権利擁護事業)

地域福祉権利擁護事業(日常生活自立支援事業)は、新規契約者が増えており、年度末の利用者数も増加しています。安定した支援が継続できる体制を維持するため、生活支援員の確保および資質向上が不可欠となっています。そのため、新たな人材確保へむけ、募集の機会を増やし、幅広い年齢層の人が従事できるようにしました。また、事例検討会などの研修を設けるとともに、ヒヤリハット報告の分析・報告を行うなど、スキルアップを行う機会を提供し、安定的な事業運営に勤めました。

(1) 福祉サービス利用援助事業

①地域福祉権利擁護事業(アシストなかの)【東京都社会福祉協議会受託事業】

ア. 契約者数/支援・訪問・相談援助件数

年度	新規契約者数	解約者数	年度末利用者数	生活支援員支援件数	専門員活動件数	相談援助調整件数
2023	30	29	107	1,679	2,412	3,536
2022	30	21	106	1,614	2,286	2,656
2021	18	29	97	1,545	1,477	2,553

イ. 契約者内訳(障害別)

年度	認知症 高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	合計
2023	73	8	19	7	107
2022	71	8	20	7	106
2021	66	8	18	5	97

②緊急日常金銭管理・書類預かりサービス

契約者数／支援・訪問・相談援助件数

年度	新規 契約者数	解約 者数	年度末 契約者	生活支援員 支援件数	専門員 訪問件数	相談援助 調整件数
2023	0	0	0	0	0	0
2022	1	0	1	0	10	0
2021	0	0	0	0	0	0

③苦情解決相談

相談件数 5件（2022年度 6件） 対応件数 17件

(2) あんしんサポート事業 【中野区補助事業】

身寄りがないなど、協力が得られる親族がない単身高齢者を対象に、定期的な見守りや日常的な金銭管理や家事援助（ほほえみサービス事業と連携）を実施しています。問合せ、新規契約者ともに増加傾向にあり、関心が高まっています。

① 契約者数

(件)

年度	新規 契約者数	解約者数	年度末 契約者数
2023	6	8	43
2022	12	12	43
2021	13	6	40

② 支援件数

(件)

年度	定期 訪問	あんしん 電話	入院バッグ お届け	金銭管理 手続き支援	入院時 支援	賃貸居住 支援	死後事務 手続き支援	遺言書 作成支援	合計
2023	164	973	0	14	0	0	8	1	1,160
2022	158	952	1	13	4	0	1	2	1,131
2021	124	805	1	30	7	0	0	0	967

③ あんしんサポート利用者向け勉強会

「宅配弁当試食会」 9名参加

④ あんしんサポート事業説明会

一般区民、福祉関係者向けに実施。 22名参加

9. 成年後見支援事業（中野区成年後見支援センター）【中野区受託事業】

中野区とともに中野区成年後見制度利用促進に係る中核機関として、区民のほか、専門職後見人、福祉関係機関等から成年後見制度を含む権利擁護に関する相談を受けています。コロナ禍後、徐々に相談数が増加しています。

成年後見制度に関する講演会や出前勉強会を実施し区民への周知を図るとともに、関係機関の情報交換会などの実施により地域で成年後見制度をはじめとした権利擁護に取り組む関係者のネットワークづくりを行いました。

(1) 相談状況

①新規相談件数

年度	電話	来所	その他	合計
2023	304	78	55	437
2022	311	68	27	406
2021	298	79	1	378

②新規相談内容

相談内容	延件数		
	2023年度	2022年度	2021年度
成年後見制度に関する相談	1,004	951	710
財産管理について	26	21	98
遺言・相続について	69	59	41
法律相談について	72	42	49
その他・問合せ	75	98	84
合計（延件数）	1,246	1,171	982

③継続相談（2回目以降の相談件数）

年度	訪問相談	来所相談	カンファレンス	連絡調整	合計
2023	153	195	12	2,228	2,588
2022	187	120	13	1,604	1,924
2021	144	182	15	1,476	1,817

(2) 専門相談員（弁護士）による個別相談件数

相談件数 43件（2022年度 60件）

(3) 成年後見等支援検討会議とチーム編成支援

専門職や行政・社協からなる委員により、成年後見制度の申立に関する方針等や、権利擁護の観点から課題がある案件、支援者からの相談案件等の検討を行いました。支援検討会議を経て後見人等が選任された際には、後見人等と本人をとりまく関係者による支援チームを編成する機会に立ち合い、支援を行いました。また、チーム編成支援を実施したケースの進捗状況を年に1回確認するモニタリングを実施しました。

年度	支援検討会議 実施回数	検討ケース数	チーム編成支援 実施回数	モニタリング 実施回数
2023	20回	49件	29回	24回
2022	19回	47件	24回	未実施

(4) 実施事業

①成年後見制度説明会 6回 延 190人

内容	実施回数	参加人数
成年後見申立講座	2回	35人
成年後見制度講演会	2回	34人
後見人勉強会	2回	21人

②普及・PR事業

ア 区や区民、団体等からの要請で出張し、後見制度の説明会や後見制度に関するエンディングノート書き方講座を開催 10回実施 合計 156人参加
 イ スマイルなかの1階自由通路で展示を実施

③ネットワーク事業

内容	実施回数	参加人数
情報交換会（専門職後見人と福祉関係機関）	1回	31人
全国一斉無料成年後見相談会／司法書士による個別相談会 （公社）成年後見センター・リーガルサポート東京支部との共催	1回	18人
高齢者・障がい者のための無料法律相談 東京第二弁護士会との共催	1回	9人

10. 法人後見・法人後見監督事業【中野区補助事業】

(1) 法人後見事業

法人後見受任ケースの被後見人が亡くなり、法人後見は終了し、遺産は相続財産管理人への引継ぎを行いました。

前年度末 受任件数	新規受任件数	終了件数	2023年度末 受任件数	事業開始以来 延受任件数
1件	0件	1件	0件	3件

(2) 後見監督事業

前年度末 受任件数	新規受任件数	終了件数	2023年度末 受任件数	事業開始以来 延受任件数
11件	2件	2件	11件	26件

(3) 社会貢献型後見人養成事業

- ①中野区独自の社会貢献型後見人養成講習（2年間）の2年目で、新たに6名が後見活動メンバーに登録し、施設実習や地域福祉権利擁護事業の登録生活支援員として研修を積んでいます。
- ②社会貢献型後見人（以下後見活動メンバー）向け研修
「成年後見制度における意思決定支援について」 20人参加
「市民後見人フォローアップ研修（東社協主催）」 14人参加
- ③後見活動メンバー事例報告会 1回実施 計 19人参加
- ⑤ 後見活動メンバー登録者 25名（2023年度末）

(4) 成年後見制度申立費用助成・後見等報酬費用助成

助成内容	申請件数	助成決定件数
申立費用助成	1件	1件
報酬費用助成	14件	14件

1.1. 歳末たすけあい運動（地域活動いきいき募金）

町会・自治会、民生児童委員の協力のもと実施しています。今年度も募金額は減少しましたが、コロナ禍の中、町会・自治会を中心として感染拡大防止に努めていただき、多くの区民の方の協力をいただきました。街頭募金については、国際短期大学の学生ボランティアの協力を得て中野駅で実施しました。

また、昨年度に引き続き区内社会福祉法人が運営している福祉施設や助成金利用団体に、募金箱やのぼり、ポスター掲示などの協力をいただくとともに、中野区社会福祉協議会の特別会員に募金の協力を呼びかけ、歳末たすけあい運動を拡げる取り組みを行いました。

<特別会員>	<助成団体>
協力依頼件数 91件	協力依頼件数 74件
募金協力件数 28件	募金協力件数 5件
募金額 552,723円	募金額 21,000円
	江古田の森で募金箱の設置協力 1,391円
計 575,114円	※参考 2022年度 332,741円

(1) 募金総金額

合計 19,401,887円
内訳：町会・自治会経由 18,798,690円

街頭募金	21,753円
その他（個人・企業、預金利子等）	581,444円

参考：2022年度：19,742,032、2021年度：20,111,868円

(2) 支出金額

合計	19,401,887円
(内訳)	
・事務費	1,299,574円（2023年度使用分）
・地域福祉活動費	18,102,313円（2024度に配分）

1.2. 応急援護資金

(1) 中野区福祉事務所委託分（3千円以下の小口貸付）

生活に困窮する住所不定者等の、日常生活がおびやかされていると認められる人に、応急援護の目的で3千円（特に必要な場合は5千円）を上限とした小口資金の貸付を行いました。

貸付件数	貸付金額	償還額
898件	7,692,943円	7,123,606円

（2022年度：900件 2021年度：756件）

(2) 中野社協窓口分（3万円以内の貸付金）

臨時出費等のために、日常生活が一時的におびやかされると認められる生活困窮者を対象に3万円（特に必要な場合は5万円）を限度に貸付を行いました。

新規貸付 1件 合計 11,000円 （2022年度：9件 2021年度：7件）

（新規貸付の内訳：1万円以上～3万円未満…1件、3万円以上…0件）

(3) 食料支援

一時的に生活に困窮した方などを対象に、つなぎの支援として窓口での食料支援を行っています。

コロナ禍以降も物価高騰等の影響があり、公的制度利用や初回給与までの一時的なつなぎとして食料支援を希望する方が依然として多くいます。相談者は外国人や高齢者など、現在の公的な制度では支援の対象外となる方や、複数の生活課題があり継続的な支援が必要な方も見受けられます。

・食料支援件数…413件（2022年度：633件）

1.3. 中野区ファミリー・サポート事業【中野区受託事業】

子育て支援施策の1つとして、仕事と育児の両立を地域の支えあいにより手助けする相互援助活動として1999（平成11）年度に事業開始しました。2015（平成27）年度からは、法律改正され、第2種社会福祉事業として位置付けられています。

コロナ禍において利用会員の働き方に変化が見られ多様となっています。新型コロナウイルス

感染症の位置づけが「5類感染症」になり、徐々に実績が戻ってはいますが、以前より依頼件数、利用時間ともに減少傾向にあります。

協力会員の研修については、安全講習と救急救命講習を受講必須講座とし、更に安全な活動の実施を目指しています。1人でも多くの方に安心して活動していただけるよう、引き続き研修を行っていきます。

(1) 会員登録講習会

- ① 開催回数 年 24 回（土曜日を含む）
- ② 参加人数 514 人 <内訳>大人 374 人 子ども（同席）140 人

(2) 会員登録状況 () 内は特別会員数 (人)

年度	利用会員	協力会員	両方会員	合計
2023	1,368 (80)	183 (64)	42	1,593 (144)
2022	1,480 (73)	192 (69)	55	1,727 (142)
2021	1,574 (104)	215 (72)	62	1,851 (176)

(3) 一般援助活動内容別件数・時間

	内容	件数 (件)	時間 (時間)
1	保育施設送迎・利用前後援助	2,290	2,744時間54分
2	放課後・学校休日等の学童への援助	399	516時間19分
3	親の短期就労・求職活動中の援助及び外出時の援助	1,257	3,303時間23分
4	子どもの習い事等への援助	348	651時間20分
5	その他（多胎児の援助、障害児の送迎）	270	242時間26分
6	事前打ち合わせ（再掲）（キャンセル含む）	282	259時間36分
	計	4,846	7,717時間58分

(2022年度実績 5,271件9,135時間43分)

(4) 特別援助活動依頼内容別件数・時間

特別援助活動実績職員訪問件数

職員巡回件数 92件（2022年度 1件）

新規登録職員訪問件数 31件（2022年度14件）

	内容	件数(件)	時間 (時間)
1	病児保育	125	557時間38分
2	病児保育送迎	0	0時間00分
3	緊急送迎	1	2時間00分
4	緊急送迎保育	1	1時間40分
5	緊急一時保育	6	24時間20分

6	事前打ち合わせ（キャンセル含む）	31	31時間00分
計		164	616時間38分

（2022年度実績 18件 28時間00分）

（５）研修会の開催

	講座名	内容	実施回数	延参加者数（人）
1	協力会員養成講座	子どもの遊び、子どもの成長・発達と病気、子どもの心の発達について①②、子どもの栄養と食生活、子どもの世話、保育のこころ 小児看護の基礎知識（看護・くすり）、中野区の子ども家庭支援について	10	87
2	修了式	協力会員養成講座修了式	1	3
3	必須講座（安全講習）	子どもの成長・発達と事故について	7	28
4	必須講座（救急救命講習）	AED使用法、心肺蘇生実習など	4	20
5	協力会員懇談会	「子どもの緊急時の対応について」 第1部 講演会、第2部 意見交換会	1	12
合計			25	150

（６）広報活動状況

登録講習会開催 チラシ	会報（びーだま通信）	その他 （養成講座チラシ）
8,370枚	年2回発行 3,300部	450部配布

（７）医療アドバイザーの設置

小児科医1名を医療アドバイザーとして配置し、職員では判断が困難な病状やケース等、医療的な助言をうけました。

II 公益事業

1. 要介護認定調査受託事業【中野区受託事業】

2007（平成19）年4月に東京都より「指定市町村事務受託法人」の認可を受け、現在は中野区内の要介護認定調査件数の80%程度を受託しています。

2023（令和5）年度には介護保険の調査件数が急増し中野区では介護保険の申請から結果通知までの期間が遅れがちになっています。

これは2020（令和2）年度より新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、更新対象で面会が困難な場合には調査を行わないで12ヶ月の有効期間を合算する臨時的な取り扱いが行われていたものが、2023（令和5）年3月に終了となり、この間に先に延ばした調査の分、調査件数が増大していることが原因です。

中野区社会福祉協議会でもこの事態を受けて最大限に依頼を受けて調査を実施しましたが、遅延の解消には至っていません。

調査の依頼が増えた一方、調査員の確保が難しくなっており、安定的な調査事業運営へ向け区と調査事業運営の検討を進めています。

(1) 要介護認定調査受託件数・調査件数・収入額

年間受託件数	9,991件	(2022年度 8,781件)
年間調査件数	9,754件	(2022年度 8,403件)
年間調査票作成料収入	56,949,898 円	(2022年度 49,451,747円)

<調査件数内訳>

委託元	件数
中野区介護保険課	9,313件
中野区生活援護課	69件
他市町村	372件

(2) 登録調査員

登録調査員数 (2024年3月31日現在) 36人 (新規登録者数7人)

(3) 研修への参加

2020 (令和2) 年度より中野区他による集合研修がすべて中止となりました。そのため厚生労働省で運営するe-learningを利用した自主研修をさらに強化し、研修結果を個別指導しました。また、東京都や隣区で再開した研修にも積極的に参加を促し質の高い調査票作成のための介護認定調査員の能力の維持向上に努めました。

(4) 懇談会の実施

認定調査員の研修と情報交換を目的に、懇談会を年1回(3月)開催しました。

2. 中野区社会福祉会館の管理【中野区指定管理受託事業】

(1) 会議室の貸出(年間延利用件数)

	A会議室 (定員18人)	B会議室 (定員18人)	A B会議室 (定員45人)	D会議室 (定員8人)	計
件数	192	128	606	479	1,405
人数	1,355	941	9,050	2,236	13,582

2022年度実績 9,164人

(2) 自己評価結果

①施設の管理運営上の基本的な方針【基本目標】

ア 各階を使用する団体等との連携を図り、区民の地域福祉活動推進の拠点、障害者の社会参加の拠点施設としてふさわしい運営を行います。

イ 3階会議室においては、優先的に福祉団体等に貸し出すとともに、目的外使用についても営利目的、政治、宗教活動以外の団体に公平に貸し出します。

ウ ボランティアセンター、ほほえみサービス事業、ファミリー・サポート事業など、社会福祉協議会が実施する区民参加型地域福祉活動の拠点としての機能を充実させるとともに、地域福祉への広報・啓発を行います。

②実施結果について

ア 施設管理運営の実施結果

1) 施設の平等・公平な使用の確保

同会館の設置条例を遵守して平等・公平な使用の確保を維持し、会議室の貸出、ボランティア活動の運営、備品の貸出等を通して、区内地域福祉活動の拠点としての運営強化を図りました（備品の貸出等については後掲）。

2) 休館日

休館日は、条例上の第3月曜日、年末年始（12月29日～1月3日）とし、必要な設備・警備等の管理体制をとりました。なお、2階のなかの芸能小劇場は第3月曜日が祝日の場合は開所することとしており、それに対応できる管理体制で実施しました。

3) 安全管理について

各階の防火管理者が参加し、消防訓練を年2回実施しました。

また、運営協議会で火災等の災害時の避難の体制について協議し、日常的な防火管理体制の強化を図るとともに、大規模災害時の体制についても協議を行っています。今後も継続して話し合い、中野区の協定締結をしているボランティア本部の役割を円滑に進められるように調整を図ることとしています。

令和5年5月の新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、設備利用の際に必須としていた器具の消毒やパーティションの使用を中止しました。会議室利用者には希望があった場合の消毒用品提供を継続しています。

4) 設備維持管理業務について

- ・設備の維持管理、清掃業務（事務室使用部分は除く）、当会職員勤務時間外の3階会議室の貸出、警備は、当会の経理規程に基づき専門事業者に委託しました。
- ・委託内容の実行については、毎日業務日誌により点検しました。
- ・本会所有の備品については、本会経理規程に基づき、適正な管理を行い、区の備品についても同規程を準用し、適正な管理に努めました。
- ・軽微な小破修繕については、当会職員、設備維持管理委託事業者で行いました。

5) 運営協議会の開催

2階の芸能小劇場の指定管理者も含め各階の責任者をもって構成する運営協議会を設置し2回開催しました。

6) 要望苦情対応

1階エレベーターホールに投書箱を設置しています。投書内容については必ず運営協議会に報告し、適切に対処しています。

イ 管理運営体制と組織、職員配置について

1) 運営組織

- ・会館全体及び3階会議室については本会経営管理課（常勤4、臨時職員2名）で担当

- ・3階にある中野ボランティアセンターは大規模地震の際には区との協定により「ボランティア本部」を担当する。
- ・勤務時間は、休館日を除き、月曜から土曜、午前8時30分～午後5時15分

2) 必要人材の配置と職能

2024（令和6）年2月現在、社会福祉士35名、介護福祉士12名、精神保健福祉士10名、介護支援専門員12名、防火管理者5名（重複取得者含む）

ウ その他

1) 施設の効率的な運用と利用者に提供できるサービス

- ・機材の貸出
- ・当会のホームページに社会福社会館の案内の掲載
- ・会館1階、3階等に自動販売機を設置し、利用者の便宜を図りました。

2) 施設の近隣対策について

ブロードウェイマンション、ライオンズマンション等近隣住民とは、特に騒音等について配慮し良好な近隣関係を維持しています。

3) 情報の保護について

個人情報保護法に準拠した当会の「個人情報保護に関する規程」に基づき適切に処理をしました。

4) 第三者評価について

会館運営についての第三者機関の評価を受け、結果を中野区社会福祉協議会ホームページに公開しました。

③収支計画について

ア 施設管理運営経費の収支計画

中野区より小破修繕費用と水光熱費を除く予算残額については返還不要の方針が示され、平成28年度より事業収益が得られています。

<収入決算額> 76,721,006円

<支出決算額> 63,880,904円

<収支差額> 12,840,102円

(内訳)中野区返還額 12,408,555円

事業収益 431,547円

イ 支出経費について

世界的なエネルギー価格の高騰により水光熱費の委託費予算は増額となっていたが、今年度は政策等の影響により価格の抑制がみられたため、使用量自体は例年並みであったものの執行額は昨年度比183万円あまりの減少となり、水光熱費で1,174万円の返還が発生している。

また設備には経年劣化による故障のリスクが高い箇所が増えている。性能点検、12条点検の指摘事項を基に優先順位をつけ、区との連携のもと設備の修繕更新を計画的に実施している。その一方で小破修繕予算の範囲内でできる修繕については、区担当と協議の

上、年度内に実施している。

(3) 中野区社会福祉会館利用者の利用性の向上に関する事業

①備品の貸し出し

- ア ロッカー・印刷機・点訳プリンター・点字製本機の貸し出し 222件
- イ 点字用具・テント・発電機・マイクセット、白杖・アイマスク等 121件
- ウ 車いすの貸し出し 82件[個人74件、団体8件]

②本会ホームページへの掲載

当会のホームページに社会福祉会館の案内を掲載し利用についての広報を行いました。

③自動販売機の設置

- ◇会館1階及び3階に自動販売機を設置し、利用者の便宜を図りました。なお、この売り上げの一部を本会の実施する地域福祉事業に充当しました。
- ◇1階及び3階の自動販売機は、災害時に飲料水として無償で提供できるように業者と契約を締結しています。

東京都共同募金会中野地区配分推せん委員会(事務局)

2013(平成25)年度6月より、東京都共同募金会募金(赤い羽根、歳末たすけあい募金)の中野区内の募金配分について、東京都共同募金会への意見具申を行う「中野地区配分推せん委員会」を設置し、本会が事務局を担当しています。

(1) 中野地区配分推せん委員会の開催 3回開催

2023年5月25日 正副委員長の互選

2022(令和4)年度配分推せん委員会決算報告(監査報告)

赤い羽根共同募金及び歳末たすけあい運動の結果について

A配分、B配分申請結果及び歳末たすけあい運動最終配分結果について

歳末たすけあい運動募金を財源とした助成金の審査について

共同募金の活用と団体支援のあり方についての検討について

2023年11月30日 これからの共同募金のあり方及び方向性について

2023(令和5)年度歳末たすけあい運動の配分の方向性について

2024年1月31日 赤い羽根共同募金地域配分(B配分)の申請について

2023(令和5)年度歳末たすけあい運動の実施と配分(案)について

これからの共同募金のあり方及び方向性について

(2) 共同募金(赤い羽根)地域配分(B配分)の申請受付

	申請施設数	申請金額(円)
① 児童厚生施設(児童館)	0	0
② 保育施設(保育室・認証保育所を含む)	2	600,000
③ 障害者の地域生活支援事業を行う施設・団体	18	3,330,000

及び小規模作業所		
④ その他（地域福祉の推進を目的とする団体で地区配分推せん委員会において認められたもの）※青少年健全育成地区委員会、中野区赤十字奉仕団、ふれあい運動会、社会福祉協議会の地域福祉事業	10	1,410,000
計	30	5,340,000

※2023年度申請額 5,390,000円

（２）共同募金改革について

赤い羽根共同募金及び歳末たすけあい運動の募金額が減少し、町会自治会など募金を集めることの負担が大きくなり、募金者側から見ても募金の活用が見えにくく、何に使われているかわからないという声が寄せられています。

地域課題や社会的な課題は時代とともに変化し、新しい課題も出てきています。その新たな課題に取り組むためには、現状の助成金の仕組みでは枠組みが決まっているため限界があり、柔軟な対応が難しい状況があります。

助成金以外の支援や活動資金の確保、他の団体との連携や活動者を増やすなど、団体の運営に関する課題に対し財源を確保し、活動団体へ助成金を配分するだけでなく、運営相談や支援などのトータル的な支援を充実する必要があるため、今後の共同募金のあり方について、配分推せん委員会で検討を進めました。

＜共同募金改革の方向性＞

- 既存の助成金制度の改革（今後の配分の方向性）
- 募金者のすそ野を拡げる

様々な団体の立ち上げや活動の定着に共同募金が活用され、様々な活動が拡がることを目指し、助成金以外の支援も地域で生み出され、募金者にとっても身近な地域活動に募金がかかされてことが実感できる状態を作っていきます。